

# 西日本インカレ（合同研究会）2017 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
フリガナ）リュウコクダイガク	フリガナ）ケイザイガクブ	フリガナ）カミヤゼミ
龍谷大学	経済学部	神谷ゼミ

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	パワーポイント内の 動画使用（有・無）
フリガナ）カシマシサンシマイ	フリガナ）ヒグチアンナ	3	無
姦し三姉妹	樋口安奈		

※プレゼンツールを使用する場合は記入してください。記入がないプレゼンツールは大会当日使用できません。

使用するプレゼンツール（具体的に使用するツールを明記してください）
ビニール袋、バケツ、原稿 3 部

研究テーマ（発表タイトル）
#トイレのある生活 していますか？

※必ずく企画シート作成上の注意を>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

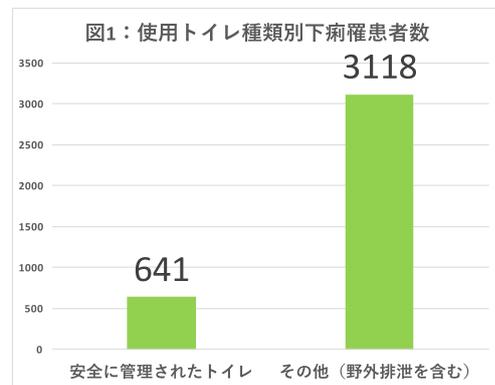
## 1. 研究概要（目的・狙いなど）

現在、世界の3人に1人、つまり24億人がトイレを使用できておらず、また約45億人の人々が安全に管理されたトイレを使用できていない。安全に管理されたトイレとは、日本人が普段使っている衛生的なトイレのことを指す。日本人にとって当たり前である衛生的なトイレの存在は途上国において当たり前でなく、良い衛生環境を整えることが感染症の予防に最も効果的な手段であるとされている。

これらを踏まえ、途上国の経済成長を考える上で重要な「子どもの健康」についての研究を行う。また、本研究メンバーは途上国の経済・社会問題へ強い関心を抱いており、独自の研究を行い、学生でも実行可能な、また現地 NGO などにも採用される子どもの健康問題への介入・教育のパッケージを提示できるようになることを目標としている。

## 2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

我々神谷ゼミはラオスを研究対象国としている。WHOによるとラオスにおける死因の60%以上が感染性疾患によるもので、東南アジアでは数値が高い国の一つであるラオスに着目して考えた。ラオスの統計データであるLSIS(ラオス社会指標調査)を用い、使用トイレ別下痢罹患患者数を図1に示す。縦軸に2週間の下痢罹患患者数を表し、横軸にトイレの種類を表している。2週間のうちに安全に管理されたトイレを使用した下痢罹患患者数は641人に対し、その他以外(野外排泄、バケツなど)を使用した下痢罹患患者数は3118人であることがわかる。安全に管理されたトイレ使用者に比べ、その他トイレを利用した下痢罹患患者数は約5倍であるということから、使用トイレの種類は下痢の罹患率と関係があると考えられる。



衛生環境が向上し安全に管理されたトイレの使用と下痢罹患患者数の相関が見られたが、世界の3人に1人しかトイレを使用できない現状を問題とし、その理由として、我々が考える三つの要素を挙げる。

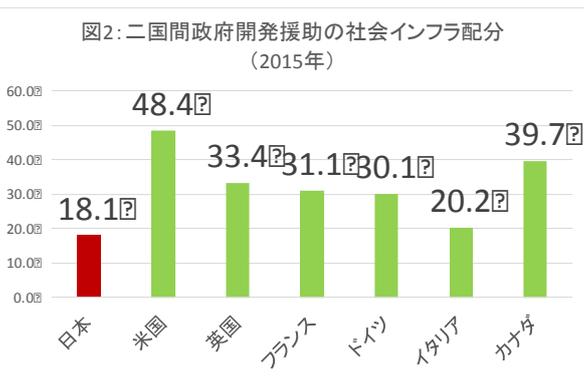
一つ目は文化的背景である。野外排泄を容認する地域では、自分の排泄物を家畜の餌に利用するといった文化が残っており、野外排泄そのものが危険であるという概念が無い。そのため排泄物により土壌から水源へと汚染され、汚染された水を生活用水として利用する人々は感染症を引き起こす。

二つ目はトイレの物理的な問題である。トイレの設置を行った地域であっても、下水道が完全に整備されていないため、トイレのある場所まで水を運ぶ必要があり、その仕事を担う子供達は学校を受ける機会を失い、教育に影響を

及ぼす。また、トイレのある場所へ水を運ぶよりも、水のある場所で野外排泄をすれば良いという考えが先行するため、排泄物による水質汚染が引き起こされる。

最後は日本の支援不足が考えられる。図2に示した二国間政府開発援助の社会インフラ配分を見ると日本は他国に比べて社会的インフラ配分が少ないことがわかる。上下水道やトイレといった生命に直接関わる衛生施設の設置に分類される社会インフラの配分が少ないと、途上国に対し行動変容を促す政策の投資が不十分

になり、衛生に対する重要性が軽視される恐れがある。



### 3. 研究テーマの課題

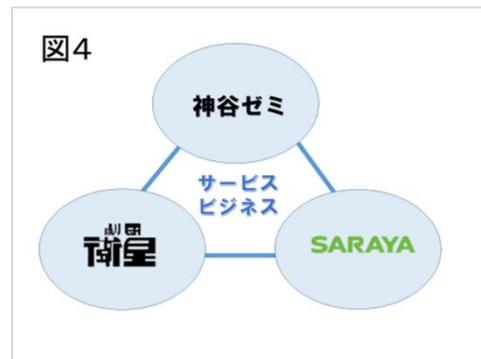
以上の現状分析から二つの研究課題が挙げられる。まず一つ目は日本人にとって安全に管理されたトイレのある生活が当たり前のものであるため、安全に管理されたトイレを使用できない途上国のトイレ環境に問題意識を持ちにくい。二つ目は、衛生を国際協力が必要な分野として認識しにくいことである。

### 4. 課題解決策 (新たなビジネスモデル・理論など)

これらの課題を解決するために、新しいビジネスモデルを提案する。現在、途上国におけるビジネスとしてサラヤ株式会社(以下サラヤ)が、手洗いの大切さを理解してもらうために「100万人の手洗いプロジェクト」を、株式会社 LIXIL(以下 LIXIL)が安全に管理されたトイレを広めるために「みんなにトイレをプロジェクト」を展開している。しかし、図3に示したように、日本と途上国の間にはトイレに関する情報の非対



称性が生まれている。日本人は安全に管理されたトイレの生活が当たり前なために、国際協力を衛生分野の重要性を理解しづらいことから、この問題を解決するべく新たなビジネスを展開する。神谷ゼミは一昨年に、劇団衛星と途上国の生活体験ワークショップを小学生対象に開催し、サラヤとは龍谷大学オープンキャンパスにて手洗いの指導を行なった。これらの経験を生かし、図4に示した神谷ゼミと劇団衛星、サラヤとの合同サービスビジネスを提案する。



それは小中学校に赴き、**途上国の理解を深めことを目的とする、訪問型演劇ワークショップ**である。

ワークショップでは日本と途上国の2グループに分け、日本と途上国それぞれのトイレ生活について小中学生に演じてもらう。日本人のほとんどがトイレ後に手洗いをしていることが質問調査で実証されたため、日本のトイレ生活の演劇の中に手洗い風景も入れてもらい、その手洗い指導はサラヤにしてもらう。子ども達がそれぞれのトイレ生活を学び、演じることによって視覚的、体感的に途上国のトイレ問題について理解を深めることを目的とする。

## 5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

二つの研究課題を検証するべく、2017年10月26日(木)、Googleドライブを用いてネットによる質問調査を行なった。大学生を中心とした日本人を対象とし、255名の回答が得られた。質問内容は第一の課題とした日本と途上国の間の情報の非対称性を検証するために「自宅にトイレはあるか」「トイレをした後に手を洗うか」を問い、その結果を図5に示した。第二の課題である衛生を国際協力が必要な分野として認識しているかを問うた結果を図6に示す。図5の結果より多くの日本人は自宅にあるトイレで安全かつ清潔な排泄を行っており、図6の結果より、国際協力において衛生分野をイメージしにくく、SDGs(持続可能な開発目標)の衛生に関する第6目標「安全な水とトイレを世界中に」について知らない人が多いことがわかる。以上の質問調査により、日本と途上国の間には**情報の非対称性が存在し、国際協力と聞いてはじめて衛生的分野をイメージする人が少ない**ことがわかった。

図5  
自宅にトイレはありますか トイレをした後に手を洗いますか

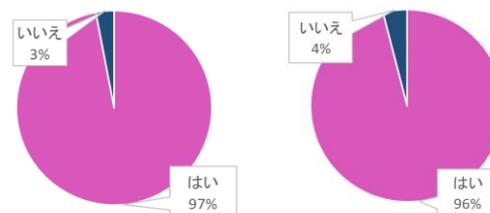
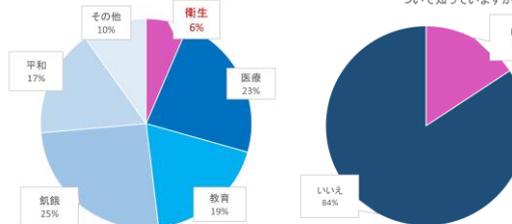


図6  
国際協力と聞き何をイメージするか SDGsの中の第6目標「安全な水とトイレを世界中に」について知っていますか



## 6. 結果や今後の取り組み

以上のことから、研究テーマの課題で挙げられた二つの問題を解決へと導くために、日本と途上国の間における**情報の非対称性を解消する必要がある**ことがわかった。この非対称性を解消すると、**途上国の衛生分野における重要性の意識が変わり、途上国の衛生問題理解につながる**と予想される。途上国の経済成長を考える上で大切な分野は様々であるが、それらの根本に存在するのが衛生問題である。衛生問題を解決することにより、教育を受ける機会が増え、それにより人的資本の蓄積が促進されるため、途上国の経済成長につながると考えられる。

## 7. 参考文献

## UNICEF (2017年10月17日閲覧)

<[https://www.unicef.or.jp/about\\_unicef/about\\_act01\\_03.html](https://www.unicef.or.jp/about_unicef/about_act01_03.html)>

<<http://worldtoiletday.jp>>

<<https://www.unicef.or.jp/news/2017/0146.html>>

## LIXIL

<[http://www.lixil.com/jp/stories/stories\\_02/](http://www.lixil.com/jp/stories/stories_02/)> (2017年10月17日閲覧)

<[http://newsrelease.lixil.co.jp/news/2014/070\\_company\\_0123\\_01.html](http://newsrelease.lixil.co.jp/news/2014/070_company_0123_01.html)>(2017年10月24日閲覧)

## 外務省

<<http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/asia/lao.html>>(2017年10月21日閲覧)

<[http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/press/shiryo/page22\\_000322.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/press/shiryo/page22_000322.html)>(2017年10月22日閲覧)

## GAP MINDER (2017年10月29日閲覧)

<<https://www.gapminder.org/>>

## LSIS (Lao Social Indicator Survey 2011-2012)

「国際協力 トイレ修行学」(2015年10月15日) 株式会社文芸社

「トイレの話をしよう 世界65億人が抱える大問題」(2009年9月30日) 日本放送出版協会(NHK出版)

### <企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、審査を行っていただく大学教員・企業の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、翌年3月に公開予定の「大会結果 Web ページ」に掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、西日本インカレ事務局にご連絡ください。事務局より手続きについてご連絡をさせていただきます。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の(過去に他誌・HPなどに発表されていない)ものに限り、ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合は、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日経BP社・日経BPマーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※プレゼンツールを使用する場合は、必ず使用するツール名をご記入ください。企画シートにご記入が無い場合は、発表当日の使用はできません。あらかじめご了承ください。

---

↑ここまでを4ページ以内に収めて、提出してください↑